





# 世界の「音」を想像する 映画に命を吹き込む「音の魔術師」



雑多なモノが溢れるスタジオで、映画の登場人物の動きやシーン、雰囲気を追いつながら、想像もつかないような道具と技を駆使してあらゆる生の音を作り出す職人、フォーリーアーティスト。

本作は金馬獎に多数ノミネートされ台湾映画界の生きるレジェンド、フー・ディンイーの40年に及ぶフォーリー人生を記録したドキュメンタリーであり、ひとりのスタッフの目を通して見た台湾映画史である。70本を超えるフーの担当作品への言及を中心に、ホウ・シャオシェン、ワン・トン、エドワード・ヤンなど、台湾映画が広く世界に認知された1980年代のニューシネマの登場、そしてそれ以前の台湾映画も垣間見ることができる貴重な記録である。音響制作の老匠匠たち、さらには台湾映画のサウンドトラックを制作する伝説的な人物たちが映画の音を取り巻く環境の変化、未来のフォーリーの存在についても語る。

監督を務めるワン・ワンローは自身のデビュー作、ルオ・フーという詩人を記録したドキュメンタリー映画の制作時に、超現実的な詩の世界を現場音だけで表現するには限界があることを痛感し、本格的に「音」を勉強しようと思ったことが本作制作のきっかけとなった。台湾のアカデミー賞とも呼ばれる金馬獎では、フー・ディンイーが年度台湾傑出映画製作者賞受賞、東京国際映画祭での上映でも反響を呼んだ映画愛溢れる作品が遂に公開となる。

映画には目に見えないプロフェッショナルがたくさん存在する。映画界のあらゆる技術的側面がデジタル化される時代が近づく中、効果音だけは決して機械やファイルに置き換えることはできない。フォーリーが仕事ではなく創作であり、生活そのものとして過ごすフーは今も尚、日々新たな音に触れている。

## フォーリーアーティストとは

足音、ドアの開閉音、物を食べる音、食器の音、暴風、雨、物が壊れる音、刀がぶつかる音、銃撃音、怪獣の鳴き声など、スタジオで映像に合わせて生の音を付けていく職人。大画面の向こう側、観客の目に触れない陰から作品の情感を際立たせる大事な役割を担いながらも、その存在はあまり知られていない。デジタル技術で作られた効果音は豊富にあるが、ひとつひとつの動作や場面に合う音は異なるため、鋭い聴覚と思ってもよらないモノを使ってリアルな効果音を生み出す想像力が必要となる。



「青春神話」

ツァイ・ミンリャン  
蔡明亮

ホウ・シャオシェン  
侯孝賢  
「悲情城市」



擬音 A FOLEY ARTIST

@foley\_artist22 公式HP: foley-artist.jp  
【2017年 | 台湾 | カラー | DCPI 5.1ch | 100分】 ©Wan-Jo Wang

「アジアの神々と匠」特集 (2023/4/11火～5/5金 ※4/15、17、24休映) 内にて上映

当日券料金: 3作品セット券 2,500円 (発売当日限り有効) / 一般 1,800円 / 学生、高校生 1,500円 / 中学生以下、シニア、障害者手帳をお持ちの方 1,200円

『擬音 A FOLEY ARTIST』	
4/11～14、16、5/1～5	15:30
4/18～23	13:00
4/25～30	10:30

『台湾、街かどの人形劇』	
4/11～14、16、5/1～5	10:30
4/18～23	15:30
4/25～30	13:00

『鬼に訊け 宮大工西岡常一の遺言』	
4/11～14、16、5/1～5	13:00
4/18～23	10:30
4/25～30	15:30

恵比寿ガーデンプレイス内  
東京都写真美術館ホール  
www.topmuseum.jp TEL: 03(3280)0099